

## VIVIENNE'S DIARY 2014 年 7 月 24 日—8 月 22 日

7/24 (木) : 夏は毎年アンドレアスの家族がいるタイロールで休暇を取っています。ミュンヘンが一番近い空港で、そこに2泊します。午後に着く予定なので、夜はオペラ「フィガロの結婚」を観に行きます。

18世紀のミニマリスの劇場仕様のコスチュームに嬉しくなりました。そうするのがより安全ですし、当時のコスチュームをモダンなドレスの手法で作るわけですから、作り手は賢くなければなりません。舞台は3面の白壁でできた箱のようになっていました。壁はとても白く、ブラックライトで照らされていました。代表となる家具が内側に置かれ、シーン毎に変わります。一番の舞台効果は、みんなが夜、庭で道に迷い、互いに思い違いをするシーンでした。床は白のシートで完全に覆われ、草むらの陰に隠れたい時は、そのシートの下か、他に四角の白の布を拾って、その下に隠れていました。それでも舞台効果はちょっと薄かったですね。だって陶器の人形みたいな白い形に気がついてしまうのですもの。人って言うよりも、彫刻のように見えたと思いますよ。

構想は大変複雑でした。このオペラを数回見たことがありますし、メインとなる場面で何が歌われるのかも覚えていますが、全ての動きと、ダ・ポンテのリブレット(台本)の性的可能性についていくことができませんでした。字幕はドイツ語でしたが、アンドレアスは全く使い物になりませんでした。字幕ではなくプログラムにドイツ語で書かれた概要を回りくどく説明しようとするため、幕間に次の幕の予習をする私に手を差しのべてはくれず、私はニュアンス全てを掴めませんでした。

ずば抜けた天才モーツァルトが私たちは大好きですが、歌はチェルビーノ以外ほんの少し薄っぺらいようでした。フィガロを歌ったアーウィン・シュロットの男らしい有り様と歌声が好きでした。

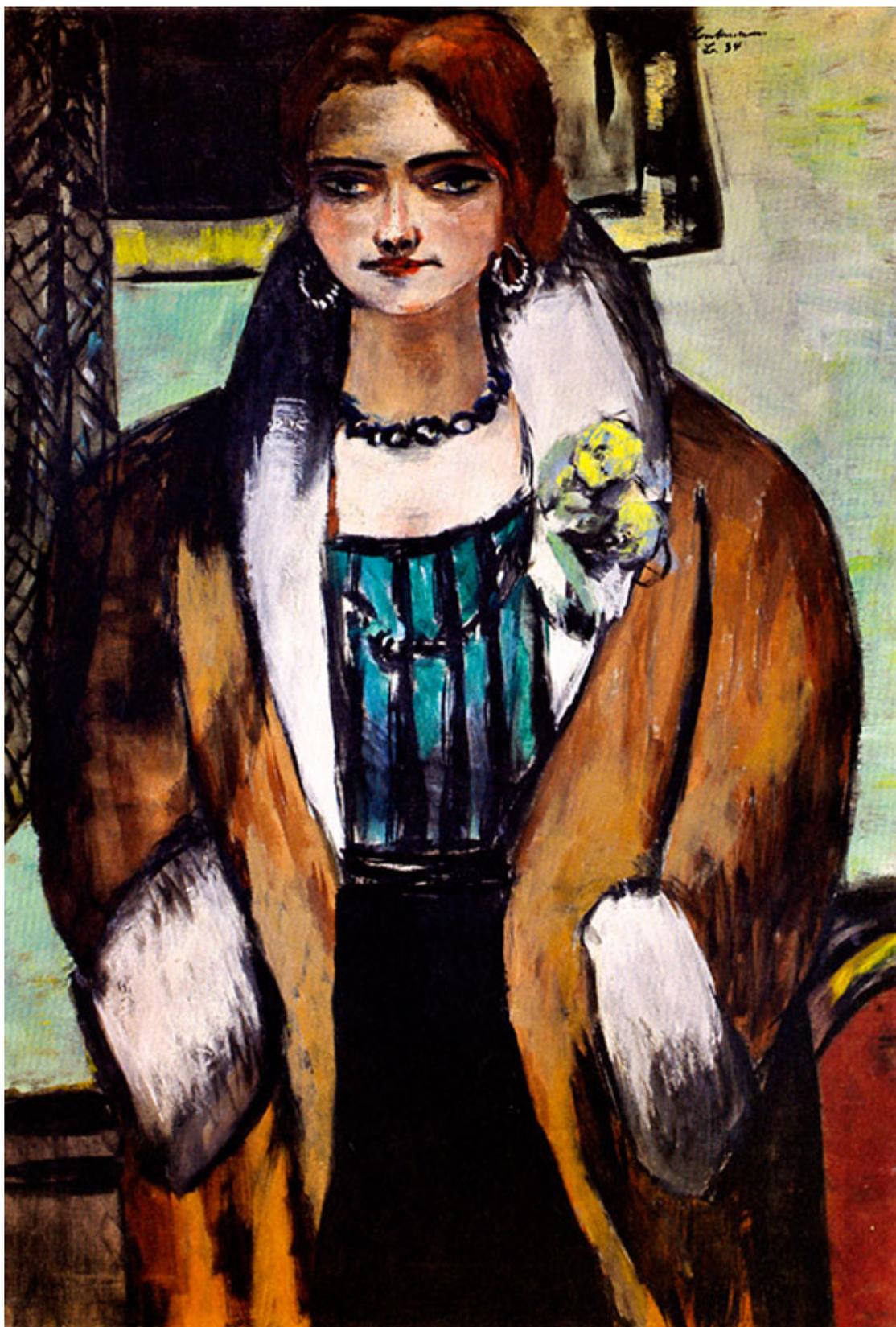
7/25 (金) : 私の友人でミュンヘン郊外に住むパトリシアが、8ヶ月の子供アウグスティーノを連れてホテルまで会いに来てくれました。8ヶ月なのにもう立っているから、歩き出すのも早いでしょうね。私はベルリンの学校で彼女に教え、彼女はロンドンでデザインアシスタントとして一時私たちと一緒に働いていました。彼女との時間が楽しかったことを、ただ言いたかっただけなのです。彼女の笑いは幸せそのものでした。言葉では表現できないわ。彼女は私のブログを読んでいるそうよ。それは私にとってとても大事なこと。

それからアンドレアスと私は絵画展へと行きました。そのアートが素晴らしくて、破壊的だけど高揚させられたわ。マックス・ベックマンとオットー・ディックスの二人の展覧会で、二人とも第一次世界大戦で生き残りました。展覧会は、主題毎に類似する二人の作品をアレンジしたものでした。



頭—自画像、オットー・ディックス

まず初めに言うことは、どちらのアーティストも美を描けたということです。ベックマンが自身の彼女、ナイラを描いた素晴らしい作品がありました。私は今日のアーティストで、美を描け、自身をアーティストと呼んでいる人を一人も知りません。私たちは誰でも醜さを描くことはできます。しかし私たちには自身をアーティストと呼ぼうなんて願望もないので、気にもしていないわけです。



どちらのアーティストも、戦争で見た物、その結果を描いて、エッチングして、色を塗りました。ディックスはメッセージを強調し、見る側の注意を引きます。彼の作品を見る人は、その恐怖の証人となることに耐えなければなりません。見るか、たちまち向きを変えてしまうかです。ベックマンは現

実が訪れるまで、もっと長く見られるよう時間を与えてくれます。ディックスの衝撃的な絵が現実だと知って、ぞっとしました。現実はこんなに酷かったのです。ベックマンも同じ物を描いたので、これが現実だと知ってはいましたが。



拷問と酷い負傷。兵士たちのこの冷たい死に際の光景に胃が重くなり、感情を抑えることができず、この絵から背を向けなければなりませんでした。



この「マッチ売り」と名付けられたエッチングをディックスが作ったのは、彼が戦争から戻って来てまだ2年も経たない頃です。

その夜、モンテヴェルディ作「オルペウス」というオペラを観に行く前に、アンドレアスのパソコンで英語の概要を読みました。羊飼いのオルペウスは、リラでとても美しい音楽を奏でました。その音を聴きに鳥や獣がやって来たほどです。彼の最愛のエウリュディケは蛇に噛まれて死にました。彼は地獄へと行き、プルトンは、彼女が後ろからついて来ても、後ろを振り返ってはいけないという条件付きで、彼女にもう一度命をあげる許しを与えました。入り口に近付くにつれ、彼は後ろを見てしまい、彼女は闇の中へと消えて行きました。アンドレアスの長年の友人であるベルトランドと妹のシルクと一緒に観に行きました。

セットとコスチュームのアイデアはとても良かったです。1970年代のセットで、オルペウスとエウリュディケのヒッピーのような結婚式から始まりました。場面変えはなく、コスチュームはヒッピーと歴史的な衣服を掛け合わせたような、実際はそれがヒッピー時代の服でしたが、（ヘンドリックスが着ていた、演劇に使われるような、19世紀の金の組み紐がついた兵隊のジャケットを思い出して）そういうものでした。コスチュームの歴史は混合した時代背景からモンテヴェルディの時代へと戻ります。それで本当の歴史的

時間設定（1607年）のオペラを現代の時間設定に持ってくるわけですから、賢いなと思いました。

唯一言えることは、全てがとても魅力的ではなかったということです。特にコスチュームが。なぜかしら。理由は、全てがグレーか白でできていたからです。ステージの床はグレーのプラスチックのシートで覆われているし、もちろん地獄の場面では、このグレーは効果的でしたが。オルペウスのスーツは酷かったわね。ベージュなのです。多分グレーの中で際立つようにそうしたのでしょね！しわしわのリネンがちょうど流行だった時で、1970年代ですよ、一番うまく例えるならば、ジョルジオ・アルマーニみたいに見えたって言えば分かるかしら。（私はジョルジオを批判しているわけではありませんよ。ただスーツの背景がそう見えたというだけです。）問題は、今の多くの劇場のデザイナー達は、色を抜きにして考えることですね。だからニュートラルになるのです。ニュートラルだと想像にもっと余地を与えてくれるでしょう。しかし私は、このつまらない習慣がなくなればいいのにと願っていますよ。

かつらは素晴らしかったです。特に三途の川の渡し守のカロンの、長くてダークなかつらは、この役を歌った男性にぴったりだったわ。彼の顔立ちが魅惑的だったのよ。とがった強い鼻に、キラキラしたサファイア色の目、そしてまばゆいほど真っ白な歯。冥界の王プルトンは大きくてきれいでした。本当に人間の神という感じで、長いシルキーな茶色のかつらをつけていました。ベストを着て、それと同色の髪が腕と胸を覆って、長く漂って、本物のように見えました。彼が二輪戦車か、ハーレーに乗っている姿を見たかったです。女王プロセルピナのドレスは素晴らしかったわ。長い黒のガウンで、星（小さな電気の光）が散りばめられて。彼女は素晴らしい歌手で、女優でもありました。観客のお気に入り、観客は幕で興奮していました。演技は雄大な音楽で最高潮へと高まりました。

私たちは公園を歩いて、伝統的な目玉焼きのマッシュ添えを食べられるレストランへと行きました。

7/26（土）：山へと向かう前に、私たちはドレスデンの聖母教会を訪れました。滞在したホテルの近くにある、煉瓦でできた大聖堂です。中は驚くほど美しかったです。両脇に通路を持つ、高いゴシック様式の身廊。白の石でできた背の高い柱にアーチ。大きくシンプルなキリストのはりつけが一番奥に高く吊り下げられています。



イェンバハに向かう列車で、私たちの反対側の席に、お腹が広がって腿までつきそうなほど太った男性がいました。その男性はカジュアルで、エレガントな装いでした。20歳くらいに見える自身の娘と話す時、その男のボディーランゲージは繊細で、上品に見えました。彼の息子は読書をしていました。降りる時、アンドレアスがこう教えてくれました。あの男性はすばらしくゆったりとリッチな語彙で、とても美しいドイツ語を話していた。とても教養の高い人だと。

私はこの休暇の間に、ドイツ語を勉強し始めようと思います。今になってどうしてかは分からないわ。13年間ベルリンで教えてきましたし、（年に7, 8回は行って、その間は4日間ほど滞在していました）私たちのパターンカッターはいつもドイツ人だし（彼らが一番なのよ）、アンドレアスとはもう20年以上も結婚していますし。理由を一つ挙げるとすれば、ドイツ人の画家やバッハやヘンデルに触発されるからですね。もちろんモーツァルトもドイツ語を話しました。それからブレヒト。私は言語を耳で習得しないから、本が必要です。私はフランス語とイタリア語は話します。それから漢字が読めるよう将来的に中国語も勉強するつもりです。漢字は、どの文字にも物語があり、文字を他の文字と一緒にする時に、新しい物語を伝えながら、オリジナルの物語も保たれていると思うのです。そしてそれが新たに作られた物語を深い意味で存在させてくれると思います。

アンドレアスの甥のグレゴールが、駅に私たちを迎えに来て、山まで車で連れて行ってくれました。1週間分の食料を買うためにお店に立ち寄り、それからアンドレアスのお兄さんであり、グレゴールのお父さんのマーティンに挨拶をしに、山のちょっと下にあるシャレーへと向かいました。シャレーは二つあり、農家のマーティンが、代わる代わる牛が放牧される間に、この二つのシャレーを使います。ここはとても平和な場所です。私たちは本を読んで、そして歩きに出かけるでしょうね。ストーブに火を点けました。シャレーには必要な物が全て揃っています。涼しい穴蔵があるので、冷蔵は必要ありません。太陽光の電気、純粋な水、牛乳に星。私たちはインナーアルプバッハという地域にいます。

7/27（日）：マーティンがランチに招いてくれました。彼の誕生日でもあります。マーティンの奥さんは山の下の方のフューゲンの村で美容室を営んでいます。彼女には3人子供がおりますが、1日の休みも取れていないのではないかしら。毎週日曜日はマーティンのところに料理をしに来るのです。他のゲストの料理も作るのですよ。アンドレアスのお父さんのフランツとヘルマ伯母さんの分もありますからね。

私はマーティンと、ちょうど出産中の牛がいる小屋へと行きました。前脚が2本出ていますが、万事大丈夫ということなので、家へと戻りました。牛はちゃんとした位置に横たわっているので、まだマーティンの出る幕はないとのこと。また小屋に戻った時、子牛の鼻が出ていました。マーティンは手の中に入れ、子牛の頭をちょっと前に動かしましたが、まだ中にあります。母親の肉に覆われ、膨張した毛の子牛の頭の形が見えました。脚と鼻の色は白です。青みがかかった白で、突き出て、動いている子牛の舌からは、何の生命の予兆も読めませんでした。マーティンは脚をロープで縛り、真剣に引っ張ります。母親の後ろ側に脚を無理にねじ込ませて立っています。そしてマーティンはもう一つの手を母親の中へと回します。先へ進めやすくするのです。子牛の目は閉じて、突然頭全体が外へと出てきました。母親は子牛がバチャッと水を壊して出てくるので立ち上がり、おしりから横になりました。子牛は茶と白で、その目は大きく広がって白いまつげで覆われています。私は感極まって身震いしていました。泣きたかったほどです。マーティン

ンは母親から子牛を放して縛りました。この子がこの母親牛の最初の子なので、マーティンは彼女を信用しません。彼女は面白い牛で、一度ハイキングしている人達を追いかけたことがあります。それ以来マーティンは彼女を外には出しません。もし母と娘の絆が強くなってしまってから、離されてしまふなら、苦しい思いをするでしょうから、今、母と娘が離されることに関して、私は気にしません。私は牛が母親の横に立って母親を綺麗にしようと舐めてあげているのを見ました。それは直感的な行動でしょうね。動物が産まれるのを見るのは、初めてのことでした。私は産まれて来た子牛が女の子で嬉しかったです。だって牡牛だと命が短いでしょう。5分も立たないうちに、子牛は立とうとしました。子牛はヴィヴィアンと名付けられました。

私ったら馬鹿だったわ。この日記のためにベストな写真を撮れたでしょうに、誰かに写真を撮ってもらうことを思いもしなかったのよ。私自身、写真を撮ったことが一度もありません。携帯電話も持っていませんし。グレゴールが次に子牛が産まれる時は、写真を撮るからと言ってくれました。



グレゴールが後で送ってくれた写真。別の牛の出産です。

毎年この時期は天候が悪いので、何も見えません。私たちはまるで雲の中にいるようで、雨が激しく降っています。時には嵐が雷や稲妻と共にやってきます。シャレー周辺には時々雹が降ります。この状態が木曜日の終わりまで続きました。アンドレアスが曇りの合間に短いウォーキングの計画を立ててくれました。奇跡的にも、毎晩雲はなくなり、空は星でいっぱいになりました。

7/30 (水) : 私たちはシャレーを満喫していますが、天候のせいでウォーキングはできなさそうです。それで1日インスブルックに行くことに決めました。グレゴールが私たちを迎えに来て、到着するとすぐにフランツの弟で、インスブルックに住むオットマーに会いに行きました。彼の奥さんクリステ

ルはそこには居ませんでした。会いたかったわ。二人とも大好きなのよ。男同士が会話をしている間、私はドイツのヴォーグを見ていました。そこにこの間のコレクションが載っていました。レッドレーベルのパンツスーツです。それにすぐ気が付きましたよ。だってそのパンツスーツだけが私のお気に入りでしたから。このコレクションの出来はどれもかなり悪かったと思っていました。プレゼントとしてもらうにしてもどれも受け取らないでしょうね。普段はファッション誌を見ないので、あえてこういったことを述べていますが、今回雑誌を見たことで次のコレクションへのやる気が出たわね。（それからどこかで、とても素敵なディオールのドレスを見たわ。）

みんなでランチを取りに町へと行きました。とても古い町もあります。私たちはオーストリア人の画家のギャラリーへと行きました。絵の中には歴史的な出来事を主題に描いているものもありました。この絵はチロル民族の英雄、アンドレアス・ホーファーです。



ホーファーは山男達を先導し、熊手でナポレオンの軍隊を破りました。このことはナポレオンが無敵ではないことを証明し、その考えは広がりました。ここでホーファーはユダヤ人であるという理由から捕らえられ、そして殺されました。

それからアンドレアスについて行くと、教会の中に居ました。そこでは、ウィーンで、マキシミリアンがアーティストに作らせたアートを見た時に、耳にしたものを見ていました。

何かと言いますと、マキシミリアンの立派な墓です。彼が活着している時に建てられたもので、素晴らしいデザインに、素晴らしい仕事です。彼の心臓だけがそこに収められています。約30体の等身大よりも大きいブロンズが

墓の周りを取り囲み、マキシミアンに忠誠を誓って見守っています。ブロンズは英雄や先祖達で、マキシミアンに偉大な血統を与えた人達です。もちろん、その主張は真実ではありません。彼はただ、自身と家族の先々の名誉のため、その重要性を作り上げただけです。それらは当時のトップのアーティストによってデザインされました。デュラルもその中の一人でした。それらは、歴史上初めて鑞を彫って作ってできたものです。巨大で、正確に細かく、特にリッチな服装のパターン。偉大な仕事ですよ。より困難な仕事だし、当時では非常に名誉あることだったでしょう。例えば現在で言うツイントワーを作るみたいな。



記念碑は 28 体の祖先、親族や英雄という大きな (200~250cm)ブロンズ像に囲まれています。

重要人物の体の色んな部分を、あちこちに埋めるのですから、その考えは私たちには奇妙に思えました。オルダス・ハクスリーの旅行記の一つに、ルイ 14 世時代の葬儀がどうだったかを書いています。ルイの伯母さんの遺跡の一つが彼女の臓器だったそうで、臓器はつぼに封をされて入れられており、発酵してしまうのでつぼが破裂し、周囲の人に飛び散ったそうです。ハクスリーはこれを 解剖的爆弾 と呼びました。

これはどうかしら。ディックスとベックマンや、戦争で人を切り刻んで爆発させる残忍な行動、子孫のために作られたもっとも精巧な墓が、教会を占拠し、そこに安置されている。その墓の中には人の心臓だけが入っている。このことは私に、罪のない人達を誘拐する中国のことを考えさせられました。誘拐した人達の内蔵をその人達が生きている間に一つずつ取り、目の角膜をはがし、移植のために売るので。アメリカがこういった人達を、罪人であろうがなかろうが関係なく買い、人と接触できないようコンクリートの小室に入れてあります。教えてよ、より良い世界のために戦えるほど、私たち人類

は正気なの？権力者達は地獄の穴を掘り続けているじゃないの。その穴に彼らも落ちることになるのよ。

8/1（金）：輝かしい山を見て目が覚めました。太陽は青い空の中に。アンドレアスは山の頂上まで歩きに出かけました。私はそのチャンスを逃したけど、読書をし、世界の未来を豊かにするため、また今の私たち自身のために望み、探しているわずかな光への突破口を見つけました。（ラブレーです。まだたくさん読まなければなりません）

泥でできた地滑りを見に小道へと出かけましたが、道は塞がれていました。

8/2（土）：ついにアンドレアスと一緒に山頂へと歩きました。それから森を通って帰ってきました。道中どこにでもあったポルチーニ茸を摘みませんでした。だって3日間もポルチーニ茸の御馳走続きだったのですから。みんながポルチーニをバスケットに入れて送ってくれるのです。ポルチーニ（フランス語ではセップ）は、シュタインピルツェと呼ばれ、（一つは帽子ほどの大きさでした）アンズ茸はフィファリングと呼ばれます。アンドレアスは料理をし、3冊の本を読みました。チヌア・アチェベの「崩れゆく絆」、アンドレアスの大好きな本で、最もエレガントな文体で素晴らしいお話です。アフリカで初めの、未だに一番素晴らしい文学と言えるのではないかしら。次に19世紀のダンサーで高級娼婦でもあった、世界中を旅した美しいローラ・モンテスの伝記です。最後は「メレカル・クロイの秘密の日記」、この本の副題は「ネヴァー・ワズ・モア・スプレンディッド・トゥ・リヴ」です。ルイ14世と旅を共にした給仕の話です。彼は王様の膝元で話すことを許された人でした。

8/3（日）：時はどんどん過ぎていきますが、イリス達に会いに2日間ボーデン湖へと行く予定です。（彼女は私たちのパターンカッターで考案者でもあったのよ。覚えていますか？）

グレゴールが10時に来てくれて、みんなでマーティンに別れを告げに行きました。そして伝統的な日曜日のランチをとりました。（フレッシュチーズみたいなものが入ったパリッとしたパンケーキに豆と大麦のスープ。バターミルクにケーキとコーヒー。）ジュリアがイリスへ渡すようにと、またたくさんマッシュルームをくれました。

山を降りる時に（山はアンドレアスの家族の持ち物です）500年前にできたシャレーに立ち寄りました。大きくて急傾斜の坂のてっぺんに建てられています。それも家族が所有していますが、人に貸しています。アンドレアスは、いつか自分に時間ができたら、そのシャレーを後500年は持つように作りたいとよく話しています。彼は自分でその改造に取り組むでしょうね。全てのパーツを補強して、完璧な状態で当時と同じに見えるように仕上げるでしょう。これよりエレガントな家なんてありませんよ。本当です。長持ちするように、全てが揃って完璧であるよう建てられて環境とも調和しているのですから。

列車に乗ってインスブルックからリンダウへと向かいました。イリスと息子のアーモンとハッターに会い、ドイツのリビエラ海岸地方に 1930 年代にスパリゾートとしてできたバート・シャーヘンへと連れて行ってくださいました。全てがまだオリジナルのままで、何も変わっていません。老人が芝刈り機のように見える機械を砂利道に沿って押していました。それで芝生の下を焼き、砂利に穴をあけるのです。



他のみんなが出かけている間、私はイリスの家に残って日記を書き上げました。イリスはそのことを問題なく承知してくれました。彼女は私を本当に喜んで受け入れてくれ、私がしたいことをしてほしいと求めていてくれました。イリスの家族の他にフローリアンと 9 歳の娘ジョセフィーヌと一緒にいました。以前休暇を過ごしていた時に会ったそうです。男の子達のお父さんと、女の子のお母さんは亡くなっています。ジョセフィーヌは男の子達と一緒に何でもし、スクーターで丘をビュンと駆け下り、栈橋で降り、湖でカヌーをしていました。帰宅した彼らを見ると、裸足で、ジョセフィーヌはズリ落ちて濡れたコットンのパンツ以外は素っ裸でした。（サーファーのファッションじゃないかしら）子供達はみんなほどよく痩せています。自意識が強くない年頃ですから、何にでもオープンで、長椅子と一緒にくっついて座って。ジョセフィーヌが大好きです。子供達と一緒に過ごせるなんて贅沢よね。



イリスと私。これは木の外側です。



これが内側。これ全部一本の木ですよ。幹は全て同じ根っこから出ています。

8/5 (火) : 最後の夜に、イリスの友達の家でパーティーをしました。そこに来ていた人達はエネルギーセンター (ヒーリングのようなもの) をしてい

るのです。丘側は、建物続きですが今は見捨てられて寂しいものです。かつては孤児の子供達のためのホリデーセンターだったそうです。理想ですよ。私はまたそうなると信じています。

イリスはジョギングとヨガをします（教えもするのですよ）。そしてかなりの間、エネルギーワーク（ヒーリング）の練習もしてきました。彼女がアンドレアスに教え、アンドレアスが私にポプリが入った瓶をくれ、それを私の手に置き、匂いを嗅ぎ、次は私の頭の上からチャクラポイントを通して体の下へと持ってきます。私はこれを毎朝一日の始まりに行ないます。それ以上のことは知りません。しかしこれは宇宙の力と結びつく方法に違いありません。自分のエネルギーを中心に感じ、自分や他人を助ける力をくれる。私のエネルギーが集中し、私に引き寄せられるように、昔中国人の友人が、私の手を取り、腕を体の周りに動かし、それから手を離して腕を自由にさせるというのをしたことがあります。エネルギーが引き寄せられた感じがし、エネルギーが私のところに留まる以外は、まるで水の中にいるようでした。

私たちはシャーマン・レオと、この見放されたセンターで儀式を行いました。私たちそれぞれが秘密の願い事をしました。

この地域はまるで庭のようです。青草が多く、どこにでもフルーツの木が生い茂っています。パーティーを開いてくれるホストの家へ行く途中、葡萄のツルが刈り取られてしまったので、葡萄の実がうまく熟成できなかったとホストが教えてくれました。彼自身は小さな葡萄畑を持っており、手でツルを手入れするのは楽しい仕事だと言っています。葡萄がついた葉っぱを適正量だけ残さなければなりません。私たちは彼が作ったワインを飲むつもりです。イリスの友人のローランドが料理をしてくれました。数年前から、彼は自身が作ったワインを、オーストリアのどこかで開催される、世界で最も名高いワインの大会に出場させています。それが金賞か銀賞を取り、彼もとても驚いたそうです。それ以来続けていて、彼の家の壁には、年毎に金と銀のメダルが飾られています。

8/7（木）：家に帰りました。仕事に戻ります。シモーネとミーティングです。シモーネは建築家で、私たちのパリの建物に従事しています。建物は、ショップ、ショールーム、そしてアンドレアスと私が将来的に泊まれるようアパートも兼ね備えています。（パリに住みたいわ。もしかしたら1週間か2週間、パリとロンドンで行き来できるのではないかしら。）そう、フランスの田舎も行ってみたいのよ。田舎には歴史がたくさんあるでしょう。私はフランス文化のファンなの。人生はしたいことを全部するには短すぎるわ。パリの建物は準備ができればオープンするわね。

8/8（金）：アンドレアスと私はエコサイド（環境破壊）にも罪を課す運動のため、アダムとイヴを演じました。「[エンド・エコサイド・イギリス](#)」で見られます。この人達は勇敢で献身的です。私はこの監督が撮ったショートフィルムを見ましたが、率直なメッセージに本当に感心しました。それなの

で次のショートフィルムの役に立てて嬉しいです。みなさんはコスチュームも気に入るわよ。

監督のマーカスは優しくて素敵なのよ。彼はたくさん演技の注文をしてきました。短いシーンがたくさんあって、1日がかりの仕事でした。それなので、同じことを繰り返して頼んでは来ませんでした。1シーンを毎回撮っていました。彼はとても働き者で、自分が欲しい物がきちんと分かっているから、そうすることができたのです。同様にその彼のヴィジョンをクリエイティブになれるよう私たちにも見せてくれるのね。完全に敬意を払います。素晴らしい人、素晴らしいチーム、そして素晴らしい日でした。



8/10 (日) : アンドレアスと私は私たちにとって極上の、でも無視されていて、だけれどもっとも大事なコレクションのために仕事に出かけました。どこかには行き着いている感じね。日曜日に働くのは邪魔が入らないからいいのよ。

8/13 (水) : グリーンピースと北極圏へ向かいました。(そのため月曜と火曜日は一生懸命働きました。レッドレーベル、「ヘルプ！」3番目の記事をウェブに載せ

るため。その記事はフラッキングと戦う記事です。もうアップされていますので、どうぞ読んで下さい。)

イギリスのグリーンピースを率いるジョン・ソーヴェンが、私に北極圏へ一緒に行くよう頼んで来ました。彼らはそこでフィルムを作るのです。私の反対意見としては、北極が溶けていることを撮ったフィルムはたくさんあるのに、どうして今さらまたフィルムを撮らなければいけないのかということでした。答えは、人の記憶は薄れていく、だから私が欲必要だということでした。もし若い二人の男の子達を連れて行けるなら行くわよ。一人はジョージ・ジブソン、16歳でとても印象深い子、世界と関わる自分の必要性を分かっている。もう一人はブランドン、18歳、友人パメラの息子で、カリフォルニアに住んでいます。しかし今イギリスに居るのよ。彼らと話す機会をちょうだい。若い子達は理想主義的だから、もし彼らが何か一緒になってやる方法を見つけたら、政府は耳を傾けると思うのよ。私たちのグループはこの二人の子達に、ジョン、アンドレアスと私、ローナ（映像監督）そして彼女のチームのジェームズ、ピエトロそしてエリーでした。

オスロに一泊しました。アンドレアスは素晴らしかったわ。午後にオスロに着いたら、私たちみんな（ブランドンは疲れて眠ってしまいましたが）を列車でアートギャラリーへと連れて行ってくれました。ムンクの作品を初めて見ました。レプリカはよく見るじゃない、彼の作品はとても特徴があるから。「叫び」が一番よく知られていますよね。こちらが作品の部屋です。伝達力はまるでナイフが体に入り込んでくるようです。堂々として、濃厚で、オリジナルで、奇才。



橋の上の少女達。1899年エドヴァルド・ムンク

私は今まで型にはまった19世紀の画家には目を留めていませんでした。なぜなら彼らは現実の因習に基づいて描こうとはしているけども、概して間接的に描く手法を失っているからです。それで絵は、深い幻影を作り出すことができません。表面に留まって不気味でどろどろしているように見えます。しかし今、このギャラリーにはたくさんの19世紀の作品があります。世界的にも評判の高い二人のノルウェー人の画家ダールとファーンリーが主でした。ドラマティックな風景を主題として描くその絵の大きさと野望は素晴らしいものです。普段は大きなサイズの歴史的な絵画も好きではありません。（例えば、ロンドンのナショナルギャラリーにあるジェーン・グレイの死とか）それらは光沢のある雑誌に複製され、版画で刷られて額縁に入れられてしまいます。

アンドレアスは、カスパー・ダーヴィト・フリードリヒはとても良く、19世紀の重要な画家だと思っています。フリードリヒは几帳面なのです。彼の絵は人物を伴った風景画で、最もよく知られているのは、山の上に背を向けた人物が素晴らしいパノラマをじっと見ている、男が大自然に一人ぼっちの作品です。その時まではロマ

ンティックで新しいですよ。それより前にそんな作品は見たこともないのだから。絵が男の自然への畏怖の念を伝えているのです。

ギャラリーにはたくさんの宝物がありました。私のお気に入りはいつでもマネです。



マネが描く国際博覧会。1867年

この絵は全てを伝えていますが、未完成だそうです。

8/14 (木) : スピッツベルゲンへと飛びました。島全体をこの名前呼びますが、実際は町の名前です。(人口は2千人) 島の名前はスヴァールバルで、ノルウェー領です。私たちは北緯75度から85度の間にいます。グリーンピースの船はこの沖に停泊しています。ガイドで、ここに20年住んでいるオーストラリア人のジェイソンに会いました。ちょうど今フィルムを作っていて、デイヴィッド・アテンバラーと北極圏についてのフィルムを作っているそうです。彼は何でも知っています。

彼はグリーンピースと働く典型的なタイプの人です。その中の多くは仕事を辞めた専門家達です。仕事を辞める理由は、自分たちが世界の経済システムの中に捕われてしまい、そのシステムのためにはもはや奉仕をしたくないと思うからです。それで彼らは全員アクティヴィストとなり、世界中の色々な国から来ています。ジャスパー(デンマーク人)は北極白熊の専門家で、私たちを守るためにいつも一緒です。北極白熊を見ることはありませんでした。私は多分クルー全員について話すことはできませんが、最も素晴らしい経験は、みんなが会って、一緒の時間を過ごせたことだと誰もが言います。レジャー用の小さな渡し船に乗って、エスペランザと名付けられた船へと乗り込みます。エスペランザはロシアの船で、1984年に作られました。その時グリーンピースという名を船の横に書きました。グリーンピースは本当に意味のある、感情がある団体です。私たちははしごを昇り、お互いの手を強く引っ張りました。

これは私が予測していた雪景色でも、氷解でもありませんでした。それは大きな茶色の岩と谷間に氷河がある世界でした。天候は暖かく晴れていました。青い空、普通ではありません。風が岩の上を吹き回り、岩の色を変えているように見えました。どの色も岩に映り渡るのです。ピンクの影がある氷河の色に対して、特に鋼青色が映えます。ああ、そうよ、日は決して暮れないのよ。6ヶ月間もそんな感じだそうよ。そして残りの6ヶ月はずっと暗いのよ。アンドレアスとブランドンはちょっと浸かってみたかったようだけど、そこまではできなかったようです。そこに居たら裸でいなければならないのよ。そうじゃないと服が氷で固まって自分にくっついちゃうから。

氷河に直面する時に、アンドレアスがその氷河の力について語りました。莫大な力です！何百万トンのエネルギーが私たちに近付いてきます。いつかその力を捕えようというアイデアがブランドンに浮かびました。氷河は生涯をかけて動いて、海の中で塊が衝突する音はまるで射撃の音のようです。

以前は、冬の雪からこの氷河の塊を維持していましたが、今ではそれらも後退しています。ジェイソンはこう言うでしょう。「海に岩が見えるでしょう。20年前は氷河で覆われていたのですよ。」と。ブランドンはマーブルっぽい色の岩を氷河から選んで取りました。お母さんにあげるそうです。そしてジョージは何をしているのかしら。彼はいつだって一番にどこかで何かお手伝いできることがないか見つけるのよ。そしてそういう自分をととても楽しんでいるの。彼はローナのフィルム用にキャプテンにインタビューしました。



ヴィヴィアン。ジョージ・ジブソンとブランドン・リーと一緒に。

ローナはアクティヴィストとしての私のフィルムを作っています。しかしグリーンピース用のフィルムと合わせることもできるでしょうね。クルーがジョージとブランドンに自分たちがしていることを説明してくれたのはとても助かったわ。私たち全員に広がりをもたらして、明確にしてくれたの。クライメイト・レヴォリュションは色んな NGO 団体と繋がっています。グリーンピースは自分たちでリサーチと現場作業をしています。破壊者達がやって来る前にいつも先に情報を集め、作戦を練るのです。

船は旋回し、人里離れた鉱山の町を訪れ、二人のロシア人の警備に会いました。冷戦下のロシアはこの島の一部を借りていました。そこが最後の駐屯地で、ロシアは万が一のために基地が欲しかったのではないかと思います。それでロシアはそこで石炭を掘るためという言い訳をして使っていました。儲けは全くありませんでしたが。鉱業から離れた 20 年の内に、インフラは廃れてしまいました。それは長年に渡って使われるように作られてはいなかったのです。しかしロシア時代とその革命精神は、ここに彫像と風化したプロパガンダとして残っています。写真のように魅力的で、観光客もいます。観光客の大半は私たちと同じ飛行機に乗って来ました。鉱山の町にはたったの 6 つの 8-10 階建てのアパートがあるだけです。（そのうちの一つはミツユビカモメの巣作りのための、崖として使われています。カモメの一種で

す。) スポーツセンターの裏には、オリンピック並みの大きさのプールもあります。コミュニティセンターは素敵な建物です。かつての共同体時代の連帯感を感じます。観光客のために再オープンした居心地の良いロシアバーでお酒を飲みました。そこはロシア人が経営しており、建物をホテルへ変えるつもりだそうです。景色はガラっとしていますが、犬そりのレンタルが本当にたくさんあります。夏はそりにタイヤが付くのです。

スピッツベルゲンに戻りました。本当に素晴らしい晚餐でした。私とジョージ以外はみんな酔っぱらっていましたね。ジョージはウクライナ人ですが、ローナに気を持ってテキーラショットをずっと彼女に回していました。みんなが笑って、特にブランドンのことでたくさん笑って。みんなで明朝の飛行機に何とか乗ることができました。



ヴィヴィアン・ウエストウッドと彼女のチーム。エスペランザ号のクルーと一緒に。

8/18 (月) : まだスタジオの全員が休暇から戻って来てはいませんが、ファッションに関して何とか少しだけ仕事をすることができました。クライメイト・レヴォリューションチームはここにいますので、スタッフを呼びました。フラッキングについての記事「ヘルプ！」が完成して本当に嬉しいわ。キース・ヘリングの絵を使ったのよ。パソコンでの仕事、本当に楽しかったわ。グラフィックやフィルム、リンクを使って。

どれくらい時間がかかるか分からないけど、どうやったら若い代表团とクライメイト・レヴォリューションが繋がるかを考えなければなりません。ジョージとブランドンに何かアイデアがあるといいのだけど。

8/19 (火) : ピーター・オリーヴとナショナルシアターに「メディア」を観に。私は退屈して、ピーターは怒ったわ。彼はギリシャ文学を読みますから。翻訳者がメディアの二人の子供達の殺害の理由を作り上げて内容を変えていたのですが、それは説得力がなく、ギリシャ人にとって何が大事なのか理解できなくなりました。それが何なのか私は知っていますが、理由は先に本を読んでから皆さんに教えますね。

8/20 (水) : フラッキング反対キャンペーンの進捗状況を知るため息子のジョーに会いに行きました。また彼のファッションコレクションを見るためでもあります。いくつか意見を言うかもしれませんね。好きでしたよ。明確な人物像があって。ジャック・シェパードにインスパイアされたものでした。かなり悲劇的で、犯罪者のヒーロー、だけど 22 歳の時に首を吊ったのよ。6 時に私とジョーはチームの人達に会いに行きました。アメリカから来た私たちのスター的存在のアクティヴィスト、リズに会えて嬉しかったわ。彼女は家へ帰る途中でした。

8/22 (金) : ジョーとコーラにナショナルギャラリーで会いました。ジョーのフラッキング反対戦略にはとても感銘を受けたわ。コーラはと言えば、彼女のことはあまり分らなかったわね。これが十代の日常生活ですって。不快な休暇を過ごしたそうよ。5 人の男友達が遊びで他の子を殴ろうとして、それに反対したことから仲違いした。数時間前にクレジットカード詐欺に遭っていたと分かった。テストではビジネスで D を取った以外は A だった。

私はコーラとジョーに、印象派の部屋にある絵画について話しました。それからそれぞれ好きに絵を見て回って。ドガ、オスロギャラリーでパステル画を見ました。赤い長い髪の女性が髪をといてもらって、腕と髪が伸びてだけど圧縮されて。緊張と重さを保って、色彩と構成が容赦なく素敵なの。今、私は「戦闘訓練をする若いスパルタ人」の絵の前にいます。私の回りにそんなに人がいないわ。ドガはしたいことをすることができたのだから、信じられないわ。水彩画とデッサン、どちらにも違いがないのよ。全て一つなの。話さないけど、ただ知っているの。他にこの絵で皆さんが捉えるものは若さね。彼は若さを描いたのです。